第10回 高原地区街づくり協議会　議事録（要旨）	
開催日時	平成29年7月31日（月）18：30～20：30
開催場所	福住公民館　大会議室
出席委員	12名
欠席委員	辻沢委員、植村委員
事務局	上田課長、岩田課長補佐、藤田主査 （関係課）教育委員会・吉岡次長、農林課・山村課長

議事内容

１．開　会　－18：30－

２．市長挨拶

第１０回の節目の会となった。協議会としてこれまで議論いただいてきたことが具体化していっている。氷まつりやジョブズスクール、長滝の取組などは、地域の皆さんが長年取り組んでこられたご尽力によりますます盛んになっている。虫送りについても今年は京都市から視察に来られるなど、発信力が強まってきたと感じている。山田町では農産物直売所「みちくさ」も整備され、進展してきている。市でも小規模特認校を最重要課題として実施しているが、地域の皆様の日々の見守りなど、安全へのご配慮があり通学も行えている。また本日は移住促進の点で、福住に実際に移住してこられた中島様にもお越しいただいた。こうした進捗の状況を皆様と共有し、この流れを一過性のものにせず、着実な今後の展開につなげていけるよう、今回も深長なご審議をいただければと思う。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

３．辞令交付

新たに就任された福住区長会選出の３委員について、市長より辞令交付。

４．議　事

(1)移住定住事業の進展について

事務局

高原地区をＰＲするコンテンツについて紹介

会　長

高原地区のライフスタイルブックの作成にあたっては、取材・撮影にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。冊子は国の移住交流情報ガーデン等公共の施設に置くということも大事だが、漠然と撒くよりは、口コミなどで関心をお持ちの方に小分けで直に届けていくことも大切だと思っている。その点では、冊子を作成いただいた赤司さんのネットワークにもお願

いをしているところだ。この冊子の活用、地域の中での活かし方、又は配布先等について、ご意見等あれば伺いたい。

委　員

冊子を預けていただけるのであれば、また協力もさせていただきたい。東京でも見ていただいているとのことだが、感想はどのような感じか伺いたい。

事務局

冊子に対する感想としてはこちらに直接はまだ届いていないが、空き家等に関する問い合わせは増えてきている。

会　長

一般的にいえば、とてもきれいに作られていて評価も高い。後ほどお話も伺うが、中島さんも移住関係のネットワークをお持ちでいらっしゃる。ご覧になってみて、この本はいかがでしょうか。

中島氏

こちらでもたくさん預かり、関心のある方に配布させて頂いている。空き家お試し事業に希望者を紹介させていただいたが、その方も事前にお渡しさせていただいたこの冊子を何回も読み込んで、非常にいいということで宿泊体験されたいという話につながった。そういった事例を増やしていくことが大切なのではないかと思う。

会　長

ありがとうございます。実際に関心を持っておられる方にもご評価いただける冊子ということですね。その他の具体的なお話として、ＰＲ映像を作成した。既にご覧いただいた方もいるかと思うが、本日は２分バージョンを見ていただければと思う。

事務局

めぐみ めぐる てんり ＰＲ映像（２分バージョン）を紹介

会　長

実際には１５分の長さがあり、３組のみなさんに登場いただいた。その１組は盆地にお住まいだが、浄土で夏季に「もよの家」というカフェを営んでいただいているという方にご登場いただいた。あとは二階堂のパン屋さん、この方は神戸で修業をされて、どこで自分のお店を出すかという時に、ご主人の生まれた天理にＵターンしてこられたというパターン。映画監督の

河瀬さんは天理で地域の方と一緒に耕作放棄地を活かして農業をしておられるので、そういったコミュニティを描いている。こうした方々をご紹介しながら、３０秒・２分・１５分の３パターンの映像を作っており、今ようやくＹｏｕＴｕｂｅの方にも載せた。これをいろいろなところでご紹介し、展開していく中で、高原からの便りとも組み合わせて発信していきたい。初めてご覧になる方もいらっしゃるようなので、ぜひご自宅のパソコンでも見ていただいて、お知り合いの方に天理を紹介される際にはご活用をいただければと思う。

さて、ここで本日は実際に移住してこられた方ということで、中島さんにお話を伺いたい。中島さん、どうぞよろしくお願いいたします。

中島氏

はじめまして。福住町に引っ越してきました中島と申します。よろしくお願いいたします。今日は自分の自己紹介と、自分がしている移住に関する事業、あとは実際の移住にあたってのことなどをお話できればと思います。

私はもともと奈良市在住で、大学卒業後、東京に勤めた後２年前に戻ってきました。実際自分が戻ってきた経験として、Ｕターンであっても仕事や人間関係等でなかなか難しい部分があると感じ、そこを応援したいと「奈良移住計画」という事業を立ち上げ、奈良に移住したいという方のお手伝いをしています。奈良市の商店街をはじめとした中心市市街地のタウンマネージャーの仕事や、まちづくりＮＰＯの活動なども行っています。

奈良移住計画が何なのかというと、衣・食・住と同じように居・職・住をサポートすることを目的にした団体です。居は居場所の居で、コミュニティを意味しています。移住するにあたって友人関係や知人関係が全くないところに行くよりは、それなりに知り合いのいる状態で来たほうがいいだろうということで、コミュニティづくりのお手伝い。職というのは食事ももちろん大切なのですが、移住に関しては仕事も大切だということで職を、あとは住まいの住を、この３つをサポートするというのをコンセプトに活動しています。どんな活動かというと、奈良や東京で空き家を使ってそこをどう活用するかという意見を出し合ってもらって交流を深めるワークショップをしたりですとか、奈良を北・中・南三つに分けてそれぞれの暮らしの特徴をお伝えしたり、仕事の面では市役所職員に来ていただいて業務の紹介をしていただいたりしました。この時はちょうど職員募集もあり、参加者の中から２名程度がエントリーして、実際に２名移住にもつながったという好事例になりました。真面目なもの以外にも、一緒に楽しむ内容として飛鳥鍋や柿の葉寿司といった奈良の伝統食を食べて食文化に親しんでもらうというようなこともしています。私自身移住を決意できたのは、あるＮＰＯの地方版のプログラムで奈良の方にお会いできたことがきっかけだったこともあり、この経験からこうしたコミュニティづくりの場を大切にしています。関わり方は様々で、東京では奈良について話したいけれどそうしたコミュニティがないという声も多くあり、東京で集まる奈良セミナーというのもできつつあります。実際、７月に東京から１０人くらいに奈良に来てもらい、奈良の人々と交

流してもらうということもしてもらいました。あと、仕事の紹介として遠く離れた方にどんな場所にあって、どんな方がいるかが解るように、記事形式の求人広告を出させていただいています。実績は今まで３件だけなのですが、そのうち２件で採用が決まっております。あとは物件の紹介として、奈良市の不動産会社と提携をして紹介しています。

福住を選んだきっかけはライフスタイルブックでした。それまでは名阪のインターの印象ばかりだったのですが、冊子編集の赤司さんに紹介していただいて実際に現地を見た際、妻が自分以上に気に入ってここで子育てがしたいという思いを持ったこともあり、真剣に考えるようになりました。縁側の魅力的な物件を紹介していただいて、状態も良かったので、残せる部分は残し、水回りなど古くて手を入れる必要がある部分を中心に改修しました。当時の懸念事項としては冬の寒さや雪の日に仕事に行けるのかといったことがあり、確認のために冬に何度か足を運び、雪かきをしたりしました。また妻はペーパードライバーなのですが、ここでは車の運転が必須だということ、子どもが２人いるのですが、子どもが少ないことなどは懸念材料だなと考えていました。

このあたりに関して、寒さについては今林業関係の仕事をしていることもあり、薪ストーブを使えば何とかなるのではないかと対策を考えています。通勤も通常は奈良市に向かうことが多いので峠道を利用しているのですが、冬の間は名阪国道を使えば大丈夫ではないかと今のところは思っています。妻の運転については慣れてもらうということで、今も頑張って練習しています。子どもの少なさについては、息子・娘のためにも自分が仕事を頑張って子ども連れの家族を増やそうと思っていますが、ジョブズスクールや小規模特認校など、既に進められている地域の取り組みが移住を決める後押しをしてくれました。

家については大工さんに入っていただいて改装したのですが、外装はそのままで、内装は動きにくくなっていた表具を入れ替えたり、和室のいい雰囲気を残したかったので、畳を入れ替えたり壁を少し磨いてきれいにする程度の改修に収めています。そのほかで蔵と家の中央部分については、薪ストーブを入れたり、壁を抜いて行き来しやすくしたりといったほか、水回りを改修しました。

先日引っ越しのご挨拶に近所を回らせていただいたのですが、お返しにたくさんのお野菜を頂いてしまって、ありがたいやら申し訳ないやら思いながら、今お野菜をおいしく頂いています。子どもたちもこの環境をすごく楽しんでいます。

まだまだこれからの生活ですが、どうぞよろしくお願いいたします。以上です。

会　長

ありがとうございます。地域の皆さんといろいろな取組をやってきましたが、ついにこういう方が現れてきていただいたかという感慨を持っている。ぜひ引き続いてこの流れを強めていければと思うが、みなさんからご質問であったり気になった点であったり、受け入れる側の地域としての思いがございましたら、ぜひご意見を伺えればと思う。

委　員

いい時期に、いい場所を見つけて来ていただいたと思う。まだまだこれからだと思うが、こうして来ていただいて、実際の体験をアピールしていただけるとてもいいきっかけになった。どうぞよろしくお願いしたい。

委　員

同じ地域に住んでいるので、先日お子さんが近所の広場で遊んでいる様子を見かけた。子どもの声がするなあと思いながら草刈りをしていたが、帰られるときに近くを通りかかった際にお子さんがこちらに手を振ってくれたりして、感じのいいご家族だなあと思っていた。

お住まいは私も子どもの頃から知っていた昔ながらのお家だったが、今回きれいにされて、これから将来楽しく田舎暮らしをするのに適した住環境を作られたなあと思う。なにより奥様に気に入っていただいたというのが、長く地域に住んでいただく一番のポイントかと思う。地域でこれから行事もあるし、そういうところにも積極的に来ていただければ、地に深く根を生やしていただいて楽しい田舎暮らしをしていただけるのではないかと思う。よろしくお願いします。地域の集会も年に５・６回あって、そこに参加していただければ直会で一緒にお酒を飲ませて頂いたりもできる。

会　長

今は氷まつりが終わったところだが、次は直近では山田の観月会がある。

公民館長

今年は９月３日に開催する。観月会はお月見を兼ねて地域の祭をするというもの。

会　長

また、今後ご友人が見に来られたりといったこともあるのではないか。そうしたご関心のある方に実際に来ていただければと思う。中島さんご自身もお子さんのためにも子どもを増やしたいとおっしゃっていたが、こちらとしてもぜひサポートをさせていただきたい。

委　員

今お話しを聞いていて申し訳ないという気持ちと心強い気持ちを感じている。申し訳ないというのは自分が今地区を出ていて逆の立場であるということ。今更ながらこの田舎のいいところを見出していただいたことを非常にうれしく思っている。地域からもそれが伝わってきていて、工事が始まったなあ等と楽しみに見守っていた。福住全体もそうだが、近隣地区の住民もみんなで歓迎したいと思っているので、これからの行事等にもぜひご参加いただければと思

う。よろしくお願いします。

会　長

議事としては続いて、この中島さんに続いていただける方を作っていくということでおためし居住体験についてご説明したい。

事務局

資料に基づきおためし居住体験について説明。

会　長

仕事の面等についてはネガティブな要素もあったようだが、その辺りはどうだったか。

事務局

今回の利用者については新規就業先への不安もあり、現在の仕事を辞めてこちらに来るということにハードルを感じているようだった。

会　長

そういう場合、継続して就業できる環境かどうかが重要であるということが改めて確認された。車であれば奈良市・大阪等へのアクセスの良さが生かせるが、オフィスの都合で電車通勤に限られる方にとっては困難な部分もある。そういった意味で可能な方の場をどれだけ広げられるかだと思う。今後のお試しの方向性についてはまだこれからだが、一つ事例として先日オマーン人のアーティストの方が山田に滞在された。

委　員

オマーンからイラストレーションのアーティストの方が、イベントのためにお母様と来日された。川上村と天理市とで個展を開催された。その中で宿泊地として山田の古民家に滞在された。ちょうど虫送りの時期だったので様子を見ていただいたり、地域の方と交流されたりして過ごされた。食事についても天理市街で食材を購入したり、地域の方から差し入れに頂いた地場の野菜を活かしてオマーン料理を作られていた。
高原地区はこれだけの山々があって、自然が溢れていて、やはり空気がおいしいと言われる。今回滞在した方も次も来たい、今度は桜を見に来たいと言っていただいたので、その節はまた皆さんに受け入れて頂ければと思う。よろしくお願いします。

会　長

ありがとうございます。オマーンに耳なじみのない方もいるかもしれないが、中東の国であ

る。それだけ日本から遠い国の方々にとっても魅力的な土地であることが分かった。インバウンドやこういったものがお好きな方にも十分広げていけるのではないかと思う。お試し居住については今年度まだまだ募集中である。夏や秋に来ていただければいいと思うので、こちらでも募集をかけていくが、ご関心の方などいらっしゃったらご紹介いただければと思う。

委　員

大学には留学生もいるので、可能性としてはあると思う。

会　長

去年まではどちらかというとまだ合宿という面が強かったが、ようやく移住という部分に近づきつつあると思う。ただ課題は、お試しでいいところだと思っていただいた方が、では移ってくる先をと思ったときに住むところがあるかということ。興味をもっていただいた方に紹介できる物件がなければ、いい旅をしましたで終わってしまい、次につながらない。そういった点で次は空き家調査の現状をご説明したい。

事務局

事務局から空き家調査について説明

・水道閉栓状況等全市的空き家件数

・福住校区での先行調査結果の報告

・調査経過について

会　長

情報の集約や出し方のほか、地権者の方との接点を作ってきた部分もあるが、やはりこれだけの物件があるというのを出していかなければせっかく気に入っていただいても移り住んでいただくことはできない。高原の場合は区長様はじめ地域の皆様にも後押ししていただいて、地権者の方にもこれは地域のためにもなるというのが伝わる空気を醸成していただくことが大切ではないかと思う。最終的に地権者の方が嫌だといえば進まないかもしれないが、これまでの本当に住みたいという人がいるのかどうかもわからないという状況からすると、少しマッチングに近づきつつある。そういった点では地域の皆様にもご協力をお願いしたい。

この点について中島さん、ご意見等いかがか。

中島氏

空き家が無いと住む場所の受け皿がなく、どれだけＰＲを頑張ってもなかなか移住が進まないというのは奈良県下の自治体にはよく見られる。空き家バンクがあってもそこには１・２件しか登録されていないとか、そうなってしまうと行こうにも行けなくなってしまう。ここで空

き家調査というのは非常に重要な役目を持っていると思う。今伺った件数規模は少し少ないかなというのが印象で、もう少しあるのではないかというところをもっと発掘していけるのではないかと思う。インターネット等を通じてそうした情報を公開していくことも重要だと思う。

会　長

ありがとうございます。今は個別に不動産屋さんに地権者が問い合わせをしているところだけが物件として出ているというのが私の知る限りの感覚だが、もう少し移住に関心のある方に直にお届けできる情報集約というものが必要だと思っている。実際に移住してこられる方が出てくるということが今後の福住にとって重要な点だと考えている。こちらについてはまた個別に権利者さんとお話しさせていただく際にもご協力をいただければと思っている。いかがか。

委　員

協力はできなくはないが、持ち主との協議の中でどれだけ話ができるかはハードルの高いところもある。完全に手放してしまえばリフォーム等もできるのだろうが、なかなかそうもいかないところがある。

会　長

よくお伺いするパターンでは、一見空き家に見えるかもしれないが、持ち主さんからすれば家財道具も置いてあってたまに親族が帰ってきて管理もするので、完全に権利まで譲ってしまうのはしんどいということもあり、ケースバイケースかと思う。

その辺りは条件面もあるが、どの程度まで持ち主とお話を進めさせてもらえれば外に情報発信できるかを、こちらでももう一段整理をして進めていきたい。

委　員

今の段階では、今回ご紹介いただいた例というのはかなり特殊なケースだという認識がある。地元でもいろいろな情報発信をしてきているが、まだまだ来てくださる方は奇特な方だという印象。もう少し移住の件数も増えれば、地元にも制度として浸透してくるのではないか。

委　員

難しい問題だと思う。近所では今のところ空き家はない。近隣のほかの地区ならあるのかもしれないが、うまく連携をとれていないところもあって情報が足りないという印象だ。

会　長

せっかく関心をもっていただけるような流れができてきて、実際にお試しもしていただいて、見たいとか、いい場所はないかというお問い合わせがあったときに、あいにく今手持ちが

ないですという答えでは、せっかく来ていただいた方の可能性を潰してしまう。そうしたことが何件か続いてあそこは実際には難しいという評判が立ってしまえば進むものも進まなくなってしまう。できるだけスピーディに、何件かだけでも情報発信できるような状況を目指していければと思う。そのために最低限どういったところまでもっていけばいいでしょうか。例えば条件が合えば売ってもいいとか、長期間貸してもいいとか、そういったざっくりした部分だけでも持ち主さんから取っていけばいいのか、他の移住事業を進められる上でポイント等があればこの機会なのでお聞かせいただければと思う。

中島氏

おそらく家を売ったり貸したりする持ち主側からすると、相手がどんな人か解らないのに売ったり貸したりできないというのが先に立つと思う。最低限のレベルで言えば、いいひとがいれば貸してもいいというお気持ちさえ引き出すことができれば、あとは実際にそういう場を繋いであげてそこで一つ一つ地道に紹介していくということがいいのではないかと思う。はじめからいくらの金額でというのはハードルが高いという印象がある。

会　長

どういった条件でというのがあるとしてもそれは後の話で、まずいいひとがいたら繋いでもいいという了承をとっておくのがいいということですね。

中島氏

はい、おっしゃる通りです。移住者側にとってもいきなり購入というのはなかなかハードルが高いので、できれば貸してもらえるところから始められるのが一番だと思う。そうした貸し借りの関係の中でお互い居心地がいい相手なのであれば、購入等の交渉へとステップアップしていけばいいのではないか。もちろん持ち主さんの考え方にもよるが、多くの移住者にはそうした心理があると思っている。

会　長

となると最低限は水回りのリフォームを許してほしいとか、そういうレベルだろうか。

中島氏

そうですね。

会　長

あと、空家関係で議論になるのがここは空き家で活用できると公開してしまうと治安上の問題があるのではという点、これはどうだろうか。不動産売買でもよくある話だとは思うが。

中島氏

実際の紹介事例ではあまり聞かない話かと思う。ある程度のエリアだけで、細かい住所まで掲載しないというのもあると思う。

会　長

エリア程度の位置と、こういう物件だという外観情報を整理して、興味をお持ちできちんとお使いいただけそうな方にご紹介し実際にお連れする、そういったことを仲立ちしていくということですね。ありがとうございます。皆様この件について何かご意見等あるだろうか。移ってきていただきたいという思いはおそらく概ね賛成かと思うが、具体的にどう進めていくかというところでまず地域の皆様に歓迎の雰囲気がなければ進めていくことができないかと思う。ぜひそういったところにはご協力をお願いしたい。

水口氏

自分の近所にも一軒空き家がある。キチンとリフォームして人に貸すということまで持ち主さんもおっしゃってくれているが、近隣の者としては協力したくてもどんな人が来て何をしている人かもわからないということでは困るという意見もある。

会　長

やはりそこでもどういった方が入られるかということが重要になってくるということですね。ほかにこういったことを整理することが前に進むために必要になのではということがあれば今お伝えいただければと思う。

委　員

今回はお試しではなく移住ということで、リフォームもされている。これは家の持ち主さんがするものなのか、新しく入られる方がするものなのかお聞きしたい。

会　長

今回のケースで言えば家屋を買い取られたので、ご自身の物として新しく来られる方がご負担された。その点いきなり買うというのはハードルが高いので借りるという選択肢があればもう少し柔軟だということ、場合によってはリフォーム部分を持ち主側が負担することもありうるが、その際もどういった方が入られるかという安心感が大切という認識だ。

水口氏

以前譲ってほしいという方がいらっしゃったときに立ち会ったこともあるが、家の持ち主としてもいくら空き家だからといってよく分からない人に貸して地域に迷惑をかけるのは避け

たいとおっしゃって断っていた。

会　長

その際は関心を持たれた方がどのような方かというところまで情報の提供ができなかったということですね。その辺りで行政も入って移住を仲立ちしていただく方との体制つくりというところもこれからしっかりやっていきたい。この件についてはまた個別にご相談もさせて頂ければと思う。

次に地域におけるまちづくり事業について。これはこの高原地域に興味・関心をもってくださる方の裾野を広げる意味でも重要なことだと思っている。最近の動きについて共有させてもらいたい。

事務局

事務局から長滝町復刻堂本舗の取り組みについて概要紹介

委　員

去年に引き続き今年もＮＰＯと協力して大和川源流体験ツアーというイベントを開催した。川遊びだけでなく自然学習のような部分にもつながる取組だと思う。ここまでくれば来年も同じようにできればと思うが、ＮＰＯも毎年同じ場所では何回もできないという事情もあってそちらの協力を得られない。このあたり市にも協力いただきながら、規模を小さくしてもある程度定期的なイベントにしていければと思う。

委　員

２年目になって、毎年２００人くらいの人が集まってくれていた。これまで氷まつりと同じ日になってしまっていたのが心苦しかった。奈良県の事業の関係があり、県が定める海の日・山の日とちょうど重複するため動かすことができなかったが、次回以降は調整していければと思う。当初は本当にここに道があったのかと思えるような状態だったが、復刻堂さんがコツコツと進めて頂いて今は天理ダムの近くまで道が開通している。整備には企業も来ていただいて協力しながら進めている。婚活イベントも県が進めているもので、もう何組もカップルが成立していると県のホームページでは紹介されている。こちらを高原地域で開催していただいた。募集したのは男性１０名・女性１０名。そのうち１カップルが成立した。カップルとして成立しなくてももう少しお話したいとそのままご一緒に帰られる方もいた。そういった形できっかけつくりができていければと思う。その一つとして今回はピザやそば、茶摘みなどを実施したが、今後は田植えや稲刈りなどを取り入れてもいいのではないかと思う。高原地域に魅力を感じて、また事業があったら来たいとも言っていただいたので、地域の良さをもっとアピールしていきたいと思う。

会　長

ありがとうございます。ご意見を伺う前に、続けてもう一つ地域の取組をご紹介したい。

事務局

事務局から上山田農地保全会の取組について概要紹介

委　員

上山田バス停そばの古民家の横の納屋をきれいに改装し、直売所「みちくさ」としてオープンされた。土日の９時から１４時まで、その他は各自の仕事もあるので無人販売所として運営している。平日でも結構車が止まって購入されている様子を見かけたり、野菜がすべて売れてしまっていることもある。こうした形で地域を見て頂く機会というのが一つ、そして今まで兼業農家で仕事が主でほとんど農業はしなかったという方がちょっと自分で作ってみようかという動きが出てきたというのもある。一番大きいのはこの場所を通じてコミュニティが繋がって、新しい寄合所にもなっていること。これがよかったと思っている。

会　長

私も今聞かせていただいて、やはり地元の方が集まる場所ができたというのが大きいと感じている。皆様いかがだろうか。

委　員

空家の利用など、素晴らしい地域活性化の原動力だと思う。こうしてまちおこしとして動き出されているのを非常に気持ちよく聞かせていただいた。地元の方が押しあげてくれるのが一番の力だと思うので、そういった意味でもどんどんと推し進めていただきたいと思う。そして先ほどもお話にあったが、発信をするということがより人を集めてくることにつながってくると思う。

会　長

今の事例について初めてご覧になった方もいると思う。興味をもっていただいた点等あればみなさんと共有できればと思うがいかがか。そのほか、わかりにくかった点への疑問や、こういう点はおもしろそうだから自分の同年代を誘っても行けるのではないかとか、こういう要素があればよりいいなど、ご意見があれば。中島さんにも、お引越しになられた地域にこういった取組があることについてご感想があれば伺いたい。

委　員

野菜は一人暮らしの学生などにはとてもありがたいが、学生としてはここまで買いに来ると

いうのは考えにくい。ただ、自分の親世代は同窓会なども多くなって地元がやっぱり大切だという意識が高くなっている。地元で、地元の人が売る産品にはいい印象を持つと思う。

中島氏

地元の方からすれば野菜を買うという感覚がどれくらいあるかわからないが、個人的には地域の外に出るときに、野菜をちょっと包んで地域の特産品として渡せるようなものがあればいいのではないかと思った。直売所はまだ利用させていただいたことがないので、これからぜひお邪魔して活用させていただきたいと思う。

会　長

ありがとうございます。先ほどお話の中で引っ越しのご挨拶で頂いた野菜の写真を見せていただいたが、あれをもう少しラッピングして素敵な形でもっていくことができると、こういったものが取れる地域なんですよと話の幅も広がる。有人販売の際などにご検討いただければと思う。

それぞれ個々の取組ではあるが、点、点ではなく、発信して繋げていく中で面として面白いエリアだという気風を作るのが大切だと思う。引き続きお力添えをお願いしたい。

委　員

一つ可能性として、天理大学では毎年７月に短期日本語講習会という、海外から学生がやってくる取組がある。フランス・アメリカ・台湾・ネパール・ブラジル・スペインなどから４０人くらいがやってきて、天理市内で日本語の勉強をして、その合間で日本のあちこちに連れて行く。京都、ＵＳＪなどへも行く計画も立てていて、最初は割と留学生たちはＵＳＪを楽しみにしてきたというのだが、最後に何が一番楽しかったかと聞くと明日香村でみんなでバーベキューをしたことだと答える。京都やＵＳＪは自分たちの個人旅行でも行けそうだが、明日香村のような田舎でみんなで地元の人たちとバーベキューが一番楽しかったと。長滝でそういったことができないだろうか。

委　員

可能ではないか。実際に数日前も企業の若い人たちが来ていた。

委　員

あそこをコースに入れていただければ、明日香村まで連れていくこともない。

会　長

７月というと、ちょうど過ぎてしまったところだろう。逆を言えば来年までじっくり準備が

できるということだ。

委　員

もう一点。私の教え子に大阪の方で農業の会社を立ち上げて、農地を買ってそこで直売・流通している学生がいて、国の地方創生の予算を受けて各地の農園と契約をしている。季節性の高い果物などを育てる農家は期間限定ですごく人手がいるということで日本各地に手伝いに行くのだが、それを繰り返すうちに地域の人が顔なじみになって、そのうちもう世話しきれないからあなたたちにならこの畑を売ってあげてもいいと言ってくれるようになる。急に売ってくれとか、移住するから仕事として農業したいと言われてもよくわからない人には売れないと言われてしまうが、そういうお手伝いを繰り返していくと行く方も果樹の育て方を学ぶし、その間に人間関係もできる。自分は後継者もいないしこの人たちになら売るわという話にもなる。結果そこで農業をしながら移住できる。そういうサイクルもいいのではないかと思う。

会　長

ありがとうございます。直感的には萱生の柿農家などが当てはまるかという感じを受けたが、福住でも農繁期だからこの時に来てほしいというものがもしあれば先生に繋いでいただくというのも一案かと思う。もし当てはまるものがあれば、お声かけすることで福住に来ていただくきっかけづくりにもなる。いかがか。

委　員

茶園などもあったが、もう今更手をいれられるかどうかというところ。

委　員

山添は確かにお茶の時期だけはそういう短期の手伝いを受け入れている。今の福住には当てはまるものはないのではないか。

会　長

こちらについては今後の可能性の宿題ということで。貴重な情報なので、他の地区でも考えさせていただきたい。柿などは当てはまるという印象だ。

委　員

福住には耕作放棄地などがある。そういった放棄地をなんとか活用して何かできないか。

会　長

放棄地関係で難しいのは、関心はあるがやり方がわからないというところ。今のお話ではま

だ事業が生きているうちにその地域に入って耕作に参加している中で後継者として育つというものだったので、いくつかパターンをご相談できればと思う。

もちろんすでに自分で農業をする能力がある方で、移住をしてこられる方があったときに、近くに農地があればありがたいというケースはないとはいえない。中島さんは農地も借りたいというようなことはあるだろうか。

中島氏

正直今はそこまで余裕がないのですが、こちらでは山も使っていいとおっしゃっていただいたので、木を切って薪にするというようなことにはチャレンジしたいと思っています。

会　長

またコツのようなものは地域の方から伝授いただけるのではないかと思う。こうした地域の取組についても引き続いて協議会で情報共有させていただきながら、お試し居住等で来ていただくきっかけのタイミングでもご紹介できればと思う。

続いて、既に話題にも上っている小規模特認校制度について、今の状況等についても子どもを増やすという観点から非常に重視をしておりますので、まずはこちらを事務局から説明したい。

事務局

事務局より小規模特認校制度について紹介

・通学の様子を紹介

・地域の見守り活動について紹介

・次年度の予定について

会　長

私からも通学路の案内ボランティアとしてご協力いただいている皆様にはお礼を申し上げたい。福住の子どもたちの反応はどうだろうか。

事務局

３年生などはもともと福住の子どもたちは３名しかいなかった。今は逆転した部分もあるが全員で８名になって、サッカーやドッジボールもできるようになったと喜んでいる。当初は地域の文化ややり方の違いもあり担任の先生も苦労されたようだが、今はみな仲良く遊んでいる。福住の子どもたちにも、平野部から通学する子にとっても、双方にとってプラスになる取組でなければならないと思っている。

会　長

即効性の効果としては一年生の複式学級化を防ぐことができた。今説明会にも来ていただいているが、引き続き次の募集を継続しているところだ。完全に逆転してしまうと少し違うのではないかという気もするが、今後学校の授業のレベルを保つ、体育や課外活動などの充実を考えると、おそらく５０名前後程度の規模を維持できれば学校として十分に存続できるのではないかと思っている。今が４３名なので、若干の余裕はあるという意識を持っている。皆様これについてご意見等あればお受けしたい。ジョブズスクールなどへの反響はどうだろうか。

委　員

ジョブズスクールには特認校で通学している子は非常に参加率が高い。３年生の男の子の割合が増えたので非常に活発になったという印象。ジョブズスクールも２年目になって、福住の子どもたちにも積極性が出てきた。これまで保護者が行かせるというものが、自分が行きたいというようになったというのを何人か見ている。親は送ってくれるだけでいいと一人で参加してくれる子も出てきた。消極的だった子がサッカーなどに入れるようになったり、体力がついたり、親の側にも送り迎えでお互いに協力したりといった保護者同士のつながりが出てきたりしている。

会　長

ありがとうございます。お子さんの積極性や親御さん同士のコミュニケーションなど、ぜひその流れは強めていっていただきたい。特認校のお子さんや親御さんからすれば、たぶんジョブズスクールのようなものに参加させたいというイメージが最初にあって、福住に来ているという要素もあると思う。引き続きぜひよろしくお願いします。

関連してキッズサロンの取組について、事務局から紹介したい。

事務局

事務局からキッズサロンの取組について紹介

会　長

福住小学校の子どもたち４３名中２０名以上が参加していただいて、非常に参加率は高くなっている。これも市としても発展していけるように取り組んでいきたい。　子どもたちが元気に学び遊べる環境があってこそ、地域の未来も持続可能になってくる。あるいは移住定住を呼びかけるためにも大切だと思っているので、ぜひよろしくお願いしたい。

事務局

事務局より地域のイベント等について紹介

会　長

福住内のみならず天理駅前広場も含めて、福住の魅力を発信していこうというところ。少し駆け足になったが、最近の高原地区の取組としてみなさまと共有させていただいた。

そのなかでやはりこどもたちが楽しく福住で過ごせる環境を作っていこう、人を呼び込む交流の流れを着実にしていこう、そしてそれを実際の移住の流れに結び付けていくにはという形で話が進んできた。今後も地域で様々なイベント行事などが行われていくものを協議会全体として共有させていただき、それを実際の交流人口の増加や移住定住につなげる流れを少し事務局で詰めさせていただいて進めていきたい。

次回の日付はまだ未定だが、事業の進展や、次年度の小規模特認校がどういう流れになっているかというところが集約できたところで協議会で共有し、その際に空き家情報の提供等についても道筋を整理させていただければと思う。また適切な時期を設定いたしまして委員の皆様と協議して参りたい。それまでに行事等あれば、ここでご紹介いただければと思うが。

公民館長

８月３日にＮＨＫの８０周年記念で山田公民館が紹介される。３０秒スポットと２分のスポットがお昼と夕方の時間に全国放送される予定。私たちのたからものということで天理市からはみんなで守ってきた山田公民館の建物が採り上げられる。何もないと思っていた地域にあったすばらしいものという形で取り上げていただくことになった。また見て頂ければと思う。

会　長

ぜひご覧いただいて、地元でも自慢していただければ。

このまちづくり協議会の始まる前と比べれば、みなさまのお力でいろいろなことが進んできていると思う。これがぜひ実際の地元の活気に繋がっていくように、引き続きのお力添えをお願いいたしまして今回の協議会を閉じたいと思う。ありがとうございました。

５．閉会　－２０：２０－